

WEB 版

道徳だより

こころのたね

令和8年2月13日
大田区立馬込小学校
校長 山本 秀一
道徳部
令和8年度 第5号

心が動く時間

学びとは、本来「体験」を通して深まっていくものだと感じています。実際にやってみること、出会うこと、心が動くこと、その一つ一つが、自分の中に残っていきます。

道徳の授業では、教室にいながらも教材を通してさまざまな場面を追体験することができます。登場人物の立場になって考えたり、自分ならどうするかを問い直したりする中で、これまでの生活では意識してこなかったことに目を向ける時間が生まれます。

また、友達の考えに触れることも大きな学びです。「そんな見方もあるんだ。」「そう感じる人もいるんだ。」と気付くことで、こどもたちの価値観が少しずつ広がっていくことを願っています。

すぐに答えが出るものではありませんが、自分や周囲の人を大切にすることを育むきっかけになる時間であってほしいと感じています。

(文責:藤本 奈桜)

3年生の道徳科の時間

この日の授業では、島の墓参りでオバアに聞いた話から、命のつながりについて考えるコウちゃんの姿を通して、命にはどんな不思議があるのかを考えさせ、受け継がれる命の尊さを知り、大切にしようとする心情を育てます。

主題名: 命のふしぎ

教材名: ヌチヌグスージー命の祭り

内容項目: 「生命の尊さ」

あらすじ: コウちゃんは、お墓の前で大勢が楽しげにしているのを見て不思議に思います。オバアに聞くと、先祖への感謝を伝える行事だと言っています。オバアは、コウちゃんに命をくれた人をたどると、父母、祖父母…とつながり、多くの人によって命が続いているのだと話しました。自分の命も将来つながっていくことを思い、コウちゃんは先祖に感謝しました。

教師の問い

「ぼくの命ってすごいんだね。」と言ったときのコウちゃんは、どんな気持ちだったでしょう。

こどもたちの考え

- ・だれか一人でも欠けたらぼくは生まれてこなかった。
- ・色々な人がぼくの命をつくった。

<仕掛け絵本>



<命について書かれた絵本の紹介>



<板書>

